

1 はじめに

特別支援教育とは、障害の有無にかかわらず、児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して、適切な指導や必要な支援を行っていくものである。すなわち、特別支援学級や通級による指導だけでなく、通常の学級においても必要な教育となる。

特別支援教育の充実を図るためには、特別支援教育の視点に立った児童生徒理解が基盤となる。さらに全ての児童生徒が、自己肯定感や自己有用感を味わえるような学級経営に努め、安心感やわかりやすさが実感できる授業づくりも求められる。

そこで、先生方が自信をもって特別支援教育に取り組むために、通常の学級における安心感を高める支援を提示していきたいと考えた。

2 研究内容

(1) ユニバーサルデザイン (UD) の視点を取り入れた学級づくり・授業づくりの視点の整理

※参考資料：山形県教育センター「UDの7つの視点一覧表」

①ユニバーサルデザイン (UD) の視点を取り入れる理由。

ユニバーサルデザインとは、「全ての人にとって、できる限り利用可能であるようにデザインすること」とされている。これを教育に当てはめると、「全ての児童生徒にとってわかりやすく参加可能な学級づくり・授業づくりを行うこと」と考えられる。

②ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級づくり・授業づくりの観点

【学級づくりの3つの観点】

【授業づくりの4つの観点】

I 教室環境
II 学習や生活のきまり
III 人間関係づくり

I 授業の構成
II 教師の話し方・発問の仕方
III 板書・ノートやファイルの工夫
IV 教材・教具の活用

③ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級づくり・授業づくりにおける支援の具体例

*キーワードのみ掲載。詳細は、下野市教育研究所「研究集録 第8号・第9号」を参照。

学級づくり I スケジュールの見やすい提示 ・1日の流れを提示して見通しを ・時間割、教科書、ノートに同じ印	学級づくり I 教室の整理整頓の仕方 ・すっきりと、わかりやすく、動きやすく	学級づくり I 座席の位置の配置 ・個に応じた落ち着く位置を
学級づくり I 予定変更を視覚的にわかりやすく ・ホワイトボードに変更点や提出物を記入	学級づくり II 学習活動をきまりをわかりやすく定めた指導 ・端的な表記で振り返りしやすく	学級づくり II 学級生活のきまりの指導 ・きまりを見える形で明確に
学級づくり III 児童生徒同士が関わり合える工夫 ・自他のよさや苦手なことを理解する機会を	学級づくり III 児童生徒の理解・関係把握 ・情報の共有で、いつでも、どこでも、誰にでも適切な支援	授業づくり I ねらいに応じた学習形態の工夫 ・教科および学習内容の目的に応じて学習形態を変える
授業づくり II わかりやすい発問や指示 ・簡潔(一文・一つの動作)で、具体的、直接的な表現	授業づくり III 大事なところがわかる板書 ・文字の大きさや色、流れがわかり、復習につながる	授業づくり IV 視覚的支援を活用した教材・教具 ・具体物、写真、動画、ICT機器等で見える化を

(2) 児童生徒の状況に合わせたユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援の整理

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援をより効果的に活用するためには、児童生徒の状況に合った適切な支援を行う必要がある。そこで、児童生徒の状況と支援の関連についてまとめることにした。

- ・ 忘れ物が多い子
- ・ 一斉指示が入らない子
- ・ 授業に乗れない子

こんな子いませんか？ 忘れ物が多い子

その子からすれば・・・

連絡帳を書く時間がないよ～
字を書くことが苦手なんだ



準備するものが分からない～
どこに置いたかな～

こんな支援を試してみませんか？

「安心感」と「わかりやすさ」のある支援を目指します

1 連絡帳等を書く時間の確保

連絡は、その都度（朝の会や授業中）、同時に、背面黑板等に書きます。一気に書くことが難しい子が、休み時間等に、自分のペースで書くことができ安心感につながります。

赤枠が本日分、前日分（左）も書き残してあることで、持ち物の再確認ができる



2 セット物をわかりやすく

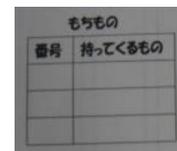
セット物が分かっていないことでの忘れ物が考えられます。時間割表の教科と、教科書・ノート・資料集等の背表紙に同色のシールやテープを貼ります。時間割表のシールの上には、数を書くことで、同色の数だけ集めれば自然に準備完了です！中学生は小口（背表紙の反対）にマジックで色付けしてしまうのがおすすめです。



3 書く量は最小限

あらかじめ準備した表に書き込ませたり、カード（定番の物がすでに記入されている）を使用させたりするのも有効です。

* 参考文献：教室でできる特別支援教育のアイデア 172 月森久江 2007



準備した表



カード

4 片づけは最終形

片づける場所に、文字・図・写真・色などで目印をつけます。片づけの最終形を写真や絵で示すとわかりやすく、右の写真は、道具箱の整とんした状態を写真に撮りその上に置く方法と、型はめの方法です。なお整理整とんは、家庭との協力が大切になります。



写真の利用



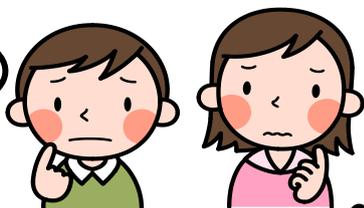
型はめの利用

こんな子いませんか？

一斉指示、指導が伝わらない子

その子からすれば・・・

〇〇が気になるな～
(集中できない・・・)
話が長いよ～



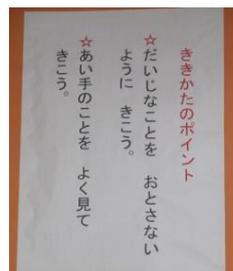
たくさん言われてわからない
何をしたいか
わからない

こんな支援をしてみませんか？

「安心感」と「わかりやすさ」のある支援を目指します

1 話をする前の声かけや合図

大事な話を集中して聞くことができるよう、話をする前に「今から大事な話をするから、こちらを見て」「今から〇つの話をするよ」といった声かけや、音を使っての合図などをして注目をさせます。正しい聞き方のモデルを学級全体で確認しておくことや、視覚刺激の少ない（掲示物等の精選）教室環境は児童の安心感につながります。



〈話の聞き方や姿勢について日常的に確認〉

2 短く具体的な指示

発問や指示は、一文が長いと内容が伝わりにくく、複数の指示を同時に出されると混乱してしまうこともあります。簡潔で、具体的な表現を用いた発問や指示を行うことで、わかりやすく伝わります。

つい使ってしまう表現を

もう少しわかりやすく

しっかり見直しましょう。 →

ちゃんと座りましょう。 →

今は何をやる時間ですか。 →

～しないと遊べないよ。 →

「1 つめは〇〇します。2 つめは△△します。」

〈一文で、一つの動作〉

「もう一度計算します。まちがいがあったら直しましょう。」

「椅子に深く腰をかけて座りましょう。」

〈抽象的でなく、具体的な表現〉

「すぐ掃除を始めましょう。」

〈直接的な表現〉

「～が終わるとたくさん遊べるよ。」

〈肯定的な表現〉

3 視覚的な手がかり

指示を板書したり、写真や絵、具体物を使ったり等、視覚的な手がかりを添えることで、よりわかりやすく伝わり、聞いたことを記憶することが苦手な児童生徒にとっては、安心感につながります。

こんな子いませんか？

授業にのれない子

その子からすれば・・・

何をやるかわからない！
つまんない！



苦手な課題だ～気持ちがいっぱい・・・
言っていることがわからない

こんな支援を試してみませんか？

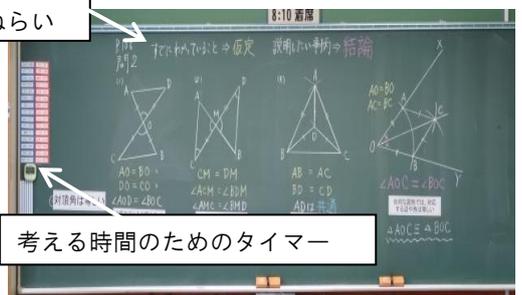
「安心感」と「わかりやすさ」

のある授業を目指します！

1 本時の「ねらい」とポイントがわかる授業

本時のねらいは毎時間必ず書き、活動の順番とポイントを明確に押さえます。授業の流れをパターン化させると、授業の見通しがもてるようになり、安心感につながります。

本時のねらい



2 自分の生活に関わるような、興味がもてる授業

導入部分を工夫し関心をもたせることが、児童生徒の授業への意欲につながります。

考える時間のためのタイマー

3 グループ学習やペア学習がある授業

学習形態を変えることで、集中力を持続させることができます。さらに児童生徒同士の教え合いは理解を深められます。

4 授業の流れが視覚的に表示されている板書

授業の流れ（左→右 横書の場合）が分かりやすい板書は視写しやすく、後で授業の確認をすることができます。

書くのが遅い、視写が苦手な子には、大切な所を示したり、プリントを用意したりして、書く分量を減らします。

身近な話題による導入



5 見やすい大きさの文字と色の板書

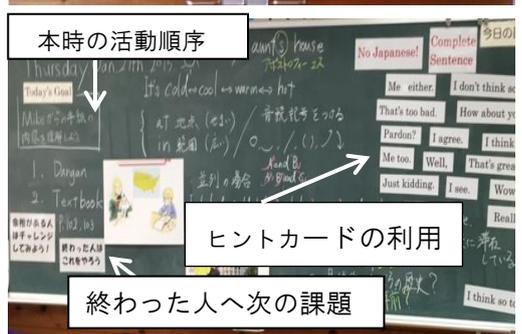
握りこぶしと同じくらいか、それよりも大きな文字で、色は白色と黄色のチョーク、次は赤色が見やすいといわれています。青色や緑色のチョークは文字としての使用はせず、補助線として用います。

※赤色は蛍光チョークを使用した方がはっきりと見えます。

番外編 それでも「寝てしまう」「イライラ」「おしゃべり」をする場合には、他に原因があると考えます。

- ①生活リズムや就寝時間、睡眠時間の確認。⇒生活リズムの改善。
- ②発達障害や病気の有無。⇒本人や保護者と相談の上受診。
(てんかん発作、カルピシ、AD/HD等が隠れている場合も)
- ③授業の理解度や人間関係の確認⇒本人が困っていることへの改善を図る。

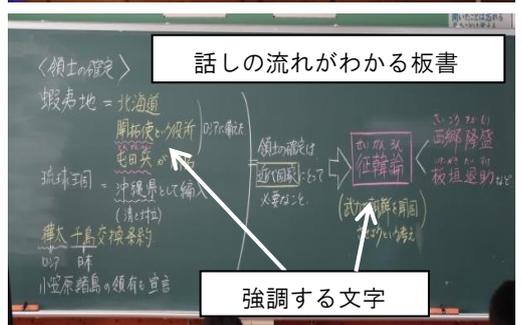
本時の活動順序



ヒントカードの利用

終わった人へ次の課題

話しの流れがわかる板書



強調する文字